

の皆さんには、ぬるま湯ではなく、精神的にも肉体的にも厳しい鍛錬の日々を送り、リベラルアーツ、歴史・哲学を学び教養を身につけ、人間性を鍛えてほしいと思う。

**近藤** さまざまな問題がクローズアップされる秋田県であるが、丑田さんが考える秋田の誇るべき点は何か、私たちの多くは秋田を離れるが、今後の秋田がより良い場所であるために持つべき視点を教えてほしい。

**丑田** 秋田には先輩たちが築いてきたさまざまな文化や雄大な自然など価値があるにもかかわらず見向きもされないものがたくさんあるのではないだろうか。自分が高校生や大学生の時は、好きなことだけで食べていくのは困難で、都会や海外の方がやりがいのある仕事に就けるといふ思い込みに縛られていて、将来秋田に帰って今のような仕事をしているとは全く想像がつかなかった。しかし、五城目町で2人目の子どもを出産し、周りの人たちの温か

さやつながりを感じて、このようなコミュニティが残されている秋田は素晴らしいと実感している。今は、子育て、仕事、県外や海外との行き来、暮らしも含めて理想の環境が秋田にはあると切り切れる。

未来は予測不可能だからこそ面白い。秋田ではそんな働き方が難しいと思っても未来はどうなっているかわからないから、自由に発想して行動していくことで、暮らしたい場所でやりたい仕事をするという夢がかなえられるかもしれない。自分がワクワクすることに飛び込み、いろいろな可能性を模索してほしい。時には、理由や目的がなくても、言葉で説明できなくてもいいから、何だか心引かれるということに向き合う時間を少しでも取ってみると、予測不可能といわれるこれからの社会で、あなたなりの仕事や暮らしのヒントが見つかると思う。

不安視したらさきがない世の中はあるが、一人一人がエネルギーや才能を使って何らかの有意義なものを生み出していけば、世の中はより良い方向に向かっていく。秋高生の皆さんであれば、何でも行動力一つで変えられる。同じ時代を生きている者としてアイデアや人のつながりを紹介できるので、何かあったら周りの大人を信頼して頼ってほしい。

**秋田で何かしたいと思いはじめた**

**岡部** 大学時代に芸人になる決意をし



た私に対して、卒業だけはしてくれと言って大学に通わせてくれた両親に感謝している。私は30歳を過ぎた頃からテレビに出られるようになり、その頃から少しずつ秋田で何かしたいと思いはじめた。自分は食べるのが好きなので、秋田で全国のおいしいものを食べられる「うまいものフェス」を開いたり、東京で秋田のおいしいものを紹介する仕事などができたらしい。秋田高校にはさまざまな仲間がいて、そんな仲間と過ごしているうちに視野が広がった。卒業してからも同期が高校時代には思いもよらなかった分野で活躍している姿に勇気をもらっている。高校時代にいろいろな友達を持って視野を広げてほしい。

**橋本** 高校生の皆さんは2050年に45歳ぐらいだ。私が45歳の頃は政治部の記者で、帰るのは深夜1時半や朝方。寝るのは移動の車だけ、日曜日は唯一勉強ができる日ということで早起きをした。そんな毎日だったが、全く後悔はない。それは会社のためにではなく、

自分のために働いていたからである。どんなに時代が進んでも変わらないことがある。「誰にも左右されない、自分は自分だ」ということだ。職業を選ぶ時にいろいろな職業がある中で、何のためにこの職業を選ぶのかをしっかりと確認してほしい。私は「職業は天職だ」と思っている。これからつらいことがたくさんあると思うが、何のためかこの職業を選んだのかという原点が明らかでなければ安易に妥協してしまう。最後に皆さんに「範は歴史にあり」という言葉を贈りたい。自分の経験できることには限りがある。歴史から学ぶべきだ。そして、親御さんを大切にしてほしい。

**近藤、畠山** 2050年は予測できないが、変化を楽しんでいきたい。今日は将来を考える良い機会となった。

※シンポジウムの内容を一部再構成しました。

《後記》

観測史上の記録を次々に塗り替えたこの夏。地球環境の変化、AIの台頭やコロナ禍による生活様式や社会構造の変化により未来が予測できない時代である。その中で今回は、「伝統は常に変化と共にあり」のキャッチフレーズにふさわしいシンポジウムであったと感じる。151年目の歴史、そして200周年に向けて、秋高生の大きな活躍を期待したい。

